

企業 訪問 *Interview*



まつだいら もりひさ
松平 保久

特別顧問
(会津松平家十四代当主)

ゆみた やへい
弓田 八平

理事長

COMPANY DATA

認定特定非営利活動法人
会津鶴ヶ城を守る会

所在地 会津若松市町北町大字藤室字藤室721-1 (株式会社弓田建設内)
TEL 0242-32-0311 FAX 0242-24-0087
設立 2003年5月
会員数 324 (法人会員103、個人会員221) 2025年5月現在
事業概要 鶴ヶ城を中心とした会津の史跡の整備・保全活動(お濠の水質浄化活動、城内清掃活動)
URL <https://www.shiromamoru.jp>



～次代を担う人たちに紡ぐ会津の誇るべき歴史と伝統～

会津若松市のシンボルである会津若松城は「鶴ヶ城」の愛称で広く親しまれており、会津の人々の誇りとなっています。しかし、お濠や石垣などをきれいな状態に保つのは容易ではなく、年月の経過とともにその整備・保全について様々な問題も生じています。

そこで立ち上がったのが今回ご紹介する「認定特定非営利活動（NPO）法人会津鶴ヶ城を守る会」です。同会は、鶴ヶ城お濠の水の浄化や城の清掃に取り組むほか、城の存在をより身近にする講座・講演やイベント開催などの活動を行っています。

そこで今回、地元の建設業「株式会社弓田建設」の代表取締役で同会の理事長を務める弓田八平氏を訪ね、鶴ヶ城を守る活動に対する思いなどについて話を伺いました。

■鶴ヶ城が名城にふさわしい姿になることを願い設立

— 設立の経緯についてお聞かせください

私は1979年に地元で建設業を創業してから、これまでずっと鶴ヶ城を見守ってきました。鶴ヶ城は「荒城の月」のモデルになったとされる名城ですが、時間の経過とともに本来の姿ではなくなってきていると感じていました。鶴ヶ城の周りを散策してみると、北東にお濠の水の取り入れ口である「三岐壕^{みつまたぼり}」と呼ばれる沈砂池があるのですが、長年にわたり土砂が流れ込み山のように堆積することで次第にお濠が浅くなり、一部は陸地化している様子がみられました。このままではいけない、何とかしなければという思いが強くなりました。

そこで、設立する1年ほど前、私と思いを同じくする方々と鶴ヶ城を守るための取組みを始めようと話し合い、準備を進め、十数人の賛同を得て2003年5月に設立・発足しました。

■心のよりどころの鶴ヶ城を守る意義

— 具体的にどのような活動をされているのでしょうか

設立の準備段階から、お濠の水質調査や落ち葉の除去、鶴ヶ城公園内の清掃活動を開始しました。現在も毎年秋に鶴ヶ城公園内の落葉清掃を実施しており、200名以上の方に参加いただいています。私たちの調査では、鶴ヶ城公園内には1,000本以上の桜の木があり、春にはきれいな花を咲かせてくれますが、秋には大量の落葉があり、放っておくとお濠に流れ込み堆積してしまいますので、取り除く必要があります。

また、三岐壕沈砂池の土砂除去作業は2004年以降4回実施しています。ただし、全体で約80,000㎡あるお濠について、水底の土砂を掘り上げて取り除く本格的な浚渫^{しゅんせつ}という作業は戊辰戦争以降これまで一度も行われていません。浚渫は、お濠の水が濁り悪臭を放ったり、陸地化が進行したりするのを防ぐためにも必要な作業であり、今後の実施に向け関係機関に働きかけているところです。さらに、歴史フォーラムの開催や、小学校などで子どもたちに講演するなど、鶴ヶ城の歴史を次世代に語り継ぐ活動にも力を入れています。



— お濠をきれいに保つことはとても重要なことなのですね

実は、私がお濠を浚渫したいと考えるのにはもう一つ目的があります。お濠の中には、戊辰戦争時の亡骸や遺品などがそのまま堆積しているのではないかとされています。私は以前から、一人でも多くの亡骸を見つけて供養してあげたいとの気持ちを強く持っていました。そして歴史の区切りとしたい。そのような理由からも浚渫を実現したいと考えています。

— 住民にとって鶴ヶ城はどのような存在なのでしょう

国指定文化財である鶴ヶ城には毎年多くの観光客が足を運び、その雄姿を楽しんでいただいています。ただし、私は鶴ヶ城が単なる観光スポットだとは思っていません。五層天守を持つお城は、東北以北では鶴ヶ城だけで、築城から600年以上たった現在でも会津人にとっては心のよりどころとなっています。多くの恩恵を受け、多くのことを教えられてきた場所であり、地域の文化を学ぶことができる、その意味においても大切な史跡だと考えています。

■理事長に就任し奔走、そして認定 NPO 法人として認定

— 理事長に就任されて活動に変化はありましたか

私は、設立当初から専務理事として活動に取り組み、2021年から理事長を務めています。鶴ヶ城の整備・保全については、地元の多くの方が同じ気持ちであると思います。しかし、従来は関係団体などがそれぞれ活動していて、皆が協力して活動すればもっと大きな力になるだろうと考えていました。そこで、私が理事長に就任して以降、整備・保全を協力しながら進められるよう、関係する皆さまへの働きかけを強化してきました。

現在、市の関係部署のほか、会津若松商工会議所、会津青年会議所、教育委員会なども加わり、鶴ヶ城を整備・保全する活動について話し合いを重ねています。従来はなかったことで、問題意識の共有が図られてきていることを心強く思っています。

— 2023年に認定 NPO 法人に認定されました

認定特定非営利活動法人は、特定非営利活動法人の中でも、運営組織や事業活動が適正で公益の増進に資すると認められた法人が認定される制度です。認定されると、寄附をしてくださった個人や企業の皆さまに税制上の優遇措置があります。

私たちの鶴ヶ城の整備・保全に対する活動が評



鶴ヶ城の落葉清掃とお濠の土砂除去活動の様子

価され、2023年に福島県より認定 NPO 法人の認定を受けました。認定 NPO 法人には、高い公益性が求められるだけでなく、法令等を遵守した適正な組織運営と高い透明性が求められます。認定を受けたことで気持ちが引き締まるとともに、鶴ヶ城を守る取組みについてさらに意識が高まっており、今後も私たちの取組みが見本になるくらい徹底してやりたいと考えています。

■全国から会津ファンが会員に

— 会員制度について教えてください

当会は会員の皆さまからの会費で運営を行っており、年会費は法人会員が1口10,000円、個人会員が1口3,000円となっています。個人会員は老若男女問わず幅広く申込みいただいております。さらに多くの皆さまに入会いただきたとお声がけをしています。

鶴ヶ城や御薬園などを管理する「一般財団法人会津若松観光ビューロー」は、会津が好きな方なら居住地を問わず加入できる「会津ファンクラブ」を運営しています。その会員の皆さまに対し当会の加入を宣伝させていただいたところ、北海道から九州まで多くの方に加入いただきました。全国に会津ファンが多く存在することに驚くとともに感謝の気持ちでいっぱいになりました。多くの会員の存在が大きな力になりますので、今後も会員を増やす取組

みを続けていきます。

— 会津松平家当主の松平保久様にも入会いただきました

2024年12月、会津松平家十四代当主の松平保久様を特別顧問としてお迎えすることができました。皆さまご存知の通り、松平保久様は会津藩最後の藩主である松平容保公の子孫で、歴史講演会などを通じて会津の文化・歴史継承活動に尽力されている方です。さらに、「花ならば花咲かん 会津藩家老・田中玄宰」など会津に関する著作を多く発表されている作家の中村彰彦様にも顧問に就任いただきました。このように、会津を愛する皆さまに入会いただけることは私たちにとって大変喜ばしく、今後の活動に弾みがつくものと思っています。

■子どもたちに思いを紡ぎたい

— 市内の学校を訪れ講演もされていますね

私たちの活動は「人づくり」も主要な目的としており、小学校から高校まで定期的に市内の学校を訪れ、若者に話をする機会を設けています。小学2～3年生くらいの小さな子どもたちに対しても、ふりがなを振ったり、なるべく平易な言葉で説明したりと、工夫をしながら話すようにしています。会津のようにお城があり歴史的な背景・物語がある、そのような地域は多くありません。会津はブランドで



会津鶴ヶ城を守る会の通常総会で挨拶する弓田理事長



2025年5月27日に歴史フォーラムを開催しました



層塔型五層天守で赤瓦が特徴の鶴ヶ城



あると話をすると、多くの子どもたちが気づき、意識してくれるようになります。また、先生も熱心な方が多く、私たちの思いを共有していただいています。子どもたちに私たちの思いを紡ぐ、このような取り組みは今後も続けていきたいと考えています。

■地域への社会貢献の気持ちが原点

— 理事長個人で会津若松市に1億円を寄附されました

鶴ヶ城は会津の財産です。この大切な財産を、市民と一体となり後世にいい形で残したいとの思いを含め、浚渫などに役立てていただきたく寄附させていただきました。鶴ヶ城のお濠の浚渫を本格的に実施するには数十億円かかるともいわれています。しかし、私たちの活動を多くの皆さまに理解いただき、実現に向けた気運醸成につながれば幸いです。

— 各種活動に対する弓田理事長の情熱はどこからきているのでしょうか

私は、(株)弓田建設を創業したときから「発展と地域社会のために」を社是としています。人は誰も支え合い、他者の力を借りながら社会生活を営んでいます。地域のために何ができるか、それをいかに

して実行するのかを常に念頭に置き行動しています。

— どのような社会貢献活動をされているのでしょうか

2014年から、会津の主力産業である農業について地元の小学校とパートナーシップを結び、ジャガイモや玉ねぎ、さつまいもなどの作物を育てる「あいづ子ども夢農園」を運営しています。これからの地域を担う子どもたちが農業の大切さを知り、健やかに成長できるよう、農業体験の機会をつくっています。



ボランティアで行っている「あいづ子ども夢農園」

また、私は「一般財団法人日本モンゴル友好ハッピー協会」の会長を務めており、日本のランドセルやリコーダー、ピアノなどの楽器、ノート、鉛筆などの文房具類などをモンゴルへ送る活動をしています。これは、2011年の東日本大震災の時、モンゴルの児童保護施設で生活をする子どもたちが、自分たちの生活保護費やコンサートの収益を義援金として日本へ贈ってくれたことに感銘を受け始めた取り組みです。このような社会貢献活動に対する取り組みが、当会の活動にも大きな影響を与えていると感じています。

■認定 NPO 法人として活動を広げたい

— 今後の抱負についてお聞かせください

まずは、鶴ヶ城お濠の浚渫実施に向けた取り組みを続けてまいります。できる範囲から少しずつ、各方面に働きかけながら実現に向けた活動を続けていきます。また、鶴ヶ城についてはお濠のほかに石垣や土塁の手入れも必要となっています。石垣の間隙から木々が伸び、土塁も一部ジャングルのようになっており、これから当会で整備を行い「化粧直し」したいと考えています。（※本年6月～7月に一部実施済）

鶴ヶ城の整備・保全以外にも活動の幅が広がっています。旧大名ゆかりの庭園に関わる民間団体が主催する「大名庭園サミット」への参加など、一緒に頑張りましょうと声をかけていただくことが増えました。歴史的遺産の維持・保存については、他の地域でも同じような課題を抱えるケースがみられることから、横のつながりも広げていきたいです。

今後も、多くの皆さまに支えられながら、地元に対する恩返しのつもりで当会の活動を続けていきます。



鶴ヶ城に対する思いを話す弓田理事長（右）、
左は事務局の星勝之氏

インタビューを終えて

社会貢献という言葉はよく耳にしますが、今回話を伺い、弓田理事長はまさにそれを体現している方だと感じました。個人で会社を立ち上げ、これまで大変な苦労があったと思いますが、弓田理事長が話されるのはいずれも今後に向けた前向きな言葉であるのが印象に残りました。5月27日の歴史フォーラムにも多くの市民が参加され、皆さまの熱量や意識の高さを感じました。今後、さらに活動の輪が広がっていくことを期待しています。

（担当：木村正昭）